

平成29年6月1日に大阪市東淀川区で発生した突風について  
(気象庁機動調査班による現地調査の報告)

6月1日22時20分頃、大阪市東淀川区で突風が発生し、学校の門扉の転倒などの被害がありました。

このため6月2日、大阪管区気象台は、突風をもたらした現象を明らかにするため職員を気象庁機動調査班(JMA-MOT)として派遣し、現地調査を実施しました。

調査結果は以下のとおりです。

(1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、ダウンバーストまたはガストフロントの可能性はあるものの特定に至らなかった。

(根拠)

- ・突風発生時に活発な積乱雲が付近を通過中であった。
- ・突風の発生時にガストフロントの通過に特徴的な観測データが得られた。
- ・突風は比較的長時間(10分程度)であったという複数の証言が得られた。

(特定に至らなかった理由)

- ・被害、痕跡及び聞き取り調査から、被害をもたらした現象を特定できる情報が得られなかった。

(2) 突風の強さの評定

この突風の強さは、不明である。

(評定に至らなかった理由)

- ・評定するに十分な根拠が得られなかった。

※この資料は速報として取り急ぎまとめたものですので、後日内容の一部訂正や追加をすることがあります。